

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：31601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02679

研究課題名（和文）栄養教諭のキャリアパスに応じた養成プログラム構築に関する研究

研究課題名（英文）A study on the construction of a training program according to the career path of nutrition teachers.

研究代表者

亀田 明美（KAMETA, AKEMI）

郡山女子大学・家政学部・准教授

研究者番号：50794377

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、栄養教諭のキャリアパスを意識した適切な教員養成課程の在り方を検討するため、栄養教諭養成課程が設置されている学問系統による教育課程の差異と養成に係る意識の違いと自治体ごとの栄養教諭の採用方針及びその自治体に採用された栄養教諭のキャリアパスを明らかにすることであった。その結果、栄養教諭に必要な資質能力として コミュニケーション能力、給食管理と食に関する指導を一体的に展開する力、食育を評価し改善する力であった。そのため、栄養教育実習と教職実践演習の担当者間で栄養教諭養成のビジョンの共有や教育委員会や学校現場との連携が重要であることが確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、これまで言われている栄養教諭に必要な資質の「栄養士力」、「授業力」、「総合的マネジメント能力」以外に コミュニケーション能力、給食管理と食に関する指導を一体的に展開する力、食育を評価し改善する力の必要性が明らかになった点と栄養教諭に必要な資質能力の形成には、「マネジメント能力」や「連携調整力」が不可欠であると言え、今後これらの能力を育成するための教育内容を検討していく必要があることを指摘できたことは、栄養教諭養成において大きな意義が見いだせる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine the ideal form of an appropriate teacher training course that is conscious of the career path of nutrition teachers.

As a result, the necessary qualities and abilities for nutrition teachers were (1) communication skills, (2) the ability to integrate school lunch management and dietary guidance, and (3) the ability to evaluate and improve dietary education.

研究分野：栄養学および健康科学関連

キーワード：栄養教諭 キャリアパス 教員養成 養成カリキュラム 教員採用選考 任用替え

## 1. 研究開始当初の背景

2005 (平成 17) 年に開始された栄養教諭制度は、各学校における食育の推進において重要な役割を担っていることは言うまでもなく、2006 (平成 18) 年 3 月に示された政府の食育推進基本計画では、全都道府県における栄養教諭の早期の配置を求めている。また 2017 (平成 29) 年に文部科学省は「チーム学校で取り組む食育推進の PDCA」として冊子を発行し、食育の推進を図っている。

2005 (平成 17) 年度当時、全国に 34 人しかいなかった栄養教諭は、2016 (平成 28) 年度には、5,765 人と約 10 年で約 170 倍の増加となった (図 1 参照)。しかしながら、小学校教諭数 409,753 人と比較すると、その差は歴然たるものあり、栄養教諭の配置には課題がある。

山本 (2010) は、栄養教諭の配置率の (都道府県) 格差を指摘しており、その背景について、山本 (2014) は、栄養教諭配置率の全国最下位である東京都と最上位の鹿児島県を比較し、当該地方自治体における食育推進行政の位置づけによる政策認識の差異を明らかにしているところである。その他、栄養教諭を研究対象とした論考として、栄養教諭制度創設過程を取り扱った川越 (2007, 2008) があり、栄養教諭制度自体、そもそも制度的な関心が低い状況が論じられている。

つまり、研究対象として「栄養教諭」が認識されていないということが出来るが、その論考の多くが「行政政策における栄養教諭」であり、養成に関する示唆が欠如しているといってもよく、教師教育における「栄養教諭」研究も不明瞭である。



### 【参考文献】

- 山本裕詞 (2010)「地方自治体における栄養教諭の配置に関する研究 宮城県を事例として」郡山女子大学『郡山女子大学紀要』46, p.107-120
- 山本裕詞 (2014)「食育行政における栄養教諭配置計画の比較研究」郡山女子大学『郡山女子大学紀要』50, p.111-124
- 川越 (2008)「栄養教諭制度に関する国会審議の分析と考察」東北大学大学院教育学研究科『東北大学大学院教育学研究科研究年報』56 (2), p.53-82
- 川越有見子 (2007)「栄養教諭制度の創設過程に関する考察 - 審議経過を中心に」東北大学大学院教育学研究科『東北大学大学院教育学研究科研究年報』56 (1), p.173-200
- 文部科学省 (2017)『栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育』

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、栄養教諭のキャリアパスを意識した適切な教員養成課程の在り方を検討するため、栄養教諭養成課程を設置する大学の教育課程の内容、自治体ごとの栄養教諭の採用数や採用方法などを分析する。その結果生じる (1) 栄養教諭養成課程が設置されている学問系統による教育課程の差異と養成に係る意識の違い、(2) 自治体ごとの栄養教諭の採用方針及びその自治体に採用された栄養教諭のキャリアパスを明らかにする。

そして、自治体の採用方針と大学の教育課程を理論的考察によって、栄養教諭のキャリアパスに応じた新たな教員養成プログラムモデルを構築・提示する。具体的には、栄養教諭のキャリアパスを意識した適切な教員養成課程の在り方を検討するため以下の事項を分析する。

### 栄養教諭のキャリアパスの分析

- ・栄養教諭のキャリアパス
- ・学校栄養職員から栄養教諭への任用替えによるキャリアパス

### 栄養教諭養成課程を設置する大学のカリキュラムの分析

- ・栄養教諭養成課程が設置されている学問系統による養成カリキュラム
- ・管理栄養士及び栄養士課程のカリキュラム

### 栄養教諭の人事政策に関する分析

- ・自治体ごとの栄養教諭の採用方針
- ・学校栄養職員から栄養教諭への移行に伴う政策成立過程
- ・栄養教諭の教員育成指標

栄養教諭のキャリアパスに着目し、大学で行われている養成カリキュラムを合わせて分析す

ること、栄養教諭として必要な資質・能力を明らかにする。そのうえで、任命権者である自治体の策定する教員育成指標と人事方針を理論的考察によって、栄養教諭のキャリアパスに応じた新たな教員養成プログラムモデルを構築・提示する。

### 3. 研究の方法

上記にある3つの目的を達成するため、構成メンバーを「栄養教諭キャリア分析班」、「カリキュラム分析班」、「人事政策分析班」のグループに分け、同時進行で調査・研究を実施していく。

栄養教諭のキャリアパスの分析（栄養教諭キャリア分析班）

- ・教員人事録の分析（文献調査）(H30～31)
  - 学校栄養職員または栄養教諭として採用された新卒者が歩んだキャリアパス
  - 学校栄養職員から栄養教諭に任用替えになった場合のキャリアパス
- ・学校栄養職員から栄養教諭を目指す背景（ヒアリング調査）(H31～32)
  - 学校栄養職員から栄養教諭への任用替えを目指した理由

栄養教諭養成課程を設置する大学のカリキュラムの分析（カリキュラム分析班）

- ・学問系統による栄養教諭養成カリキュラムの差異（文献調査）(H30～31)
  - 栄養教諭の養成課程を担う学部・学科（家政学部系、医療系）のカリキュラムの違い
- ・栄養教諭を志望する学生の意識（ヒアリング調査）(H30～31)
  - 学校栄養職員と栄養教諭のどちらかを選択する理由
- ・大学教員の栄養教諭養成と進路指導に関する意識（質問紙調査）(H31～32)
- ・管理栄養及び栄養士課程のカリキュラムを分析（文献調査）(H30)
  - 「栄養教諭論」などを含む栄養教諭養成に係る科目の配当年次の違い

栄養教諭の人事政策に関する分析（人事政策分析班）

- ・都道府県および政令市ごとの栄養教諭の採用状況を分析（文献調査）(H30～31)
- ・学校栄養職員から栄養教諭への移行に伴う政策成立過程（文献・ヒアリング調査）(H31～32)
  - 議会会議録などを参照し、近年栄養教諭の採用を決定した自治体に対して調査を行うことで、栄養教諭の採用を促進する要因の析出。
  - 学校栄養職員から栄養教諭への移行に伴う政策の導入が食育の推進において当初の政策意図通りに普及しているか否かの検証。
- ・栄養教諭の教員育成指標（文献・ヒアリング調査）(H31～32)

上記3点の課題を明らかにすることで、卒業後のキャリアパスを踏まえた計画的かつ地域の実情に合わせた栄養教諭の養成を行うためのモデルが提示できる。

### 4. 研究成果

本研究の成果について、栄養教諭のキャリアパスの分析、栄養教諭養成課程を設置する大学のカリキュラムの分析、栄養教諭の人事政策に関する分析の3つの視点からまとめていく。ただし、2019年末からの新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより予定していた研究活動の制限を受けた中での成果であることを留意していただきたい。

栄養教諭のキャリアパスの分析

栄養教諭のキャリアパスについて、学校栄養職員から栄養教諭に任用替えしている実態に着目し、今後の栄養教諭に必要な資質・能力を検討した。具体的には、福島県における学校栄養職員から栄養教諭への任用替え採用のキャリアパスに着目した。

そのうえで、学校現場で働く栄養教諭に必要な資質能力同定したうえで修得方法を検討するため、これまで言われている栄養教諭に必要な資質の「栄養士力」、「授業力」、「総合的マネジメント能力」以外の資質能力があるのか否か、「以外の資質能力」があるとすれば、その資質能力をどのように身につけてきたのかについて検討した。

以上の結果から、栄養教諭として必要な資質能力として コミュニケーション能力、給食管理と食に関する指導を一体的に展開する力、食育を評価し改善する力であった。例えば、コミュニケーション能力は、栄養教諭には、チーム学校の一員として、学校だけでなく地域全体と連携を図りつつ食育を推進していく役割が求められていることから、必要な資質能力であった。

給食管理と食に関する指導を一体的に展開する力は、栄養士力と授業力の両方を、統合して一体的に展開する力であり、栄養教諭に期待される「学校給食を生きた教材として活用した効果的な指導を行う」に通じる力でもある。食育を評価し改善する力は、食育を実践するだけでなく、計画・実施・評価・改善といった、PDCA サイクルに基づいたマネジメント能力が必要であることが指摘できる。

上記の資質能力の修得方法としては、学校栄養職員時代から意識をして栄養教諭に必要な資質能力を培ってきたといえる。例えば、食に関する指導については、先輩学校栄養職員/栄養教諭や担任教員から指導案の作成方法や指導法についての教示など学校現場が OJT の機能している

た。栄養教諭に必要な資質能力の形成には、「マネジメント能力」や「連携調整力」が不可欠であると言え、今後これらの能力を育成するための教育内容を検討していく必要があると言える。

さらに、栄養教諭養成カリキュラムでは、管理栄養士養成課程の「給食経営管理」と、栄養教諭養成課程の「栄養に係る教育に関する科目」は、通常、それぞれの科目として別々に教えられている実態があるが、栄養教諭養成段階においても「給食経営管理」と、「栄養に係る教育に関する科目」を連動させたカリキュラム開発の必要性が示唆された。

#### 栄養教諭養成課程を設置する大学のカリキュラムの分析

4年制大学の栄養教諭養成校を対象に栄養教諭のキャリアパスを意識した適切な教員養成課程の在り方を検討する一環として、栄養教諭養成課程を設置する大学の教育課程の内容を分析し、栄養教諭のキャリアパスを意識した適切な教員養成課程の在り方を検討した。

具体的には、栄養教諭養成課程が設置されている大学における教育課程の実態と養成校の意識や栄養教諭養成課程が設置されている学問系統による教育課程の差異と養成に係る意識の違い、栄養教諭養成課程を設置する大学のカリキュラム（栄養教諭養成課程が設置されている学問系統による養成カリキュラムや管理栄養士及び栄養士課程のカリキュラム）の分析を行うためアンケート調査を実施した。調査の詳細として、調査対象は2019年4月1日現在の養成校135校、調査期間は2019年9月1日～10月15日まで、回収数は72校（回収率53.3%）であった。

栄養教諭養成校を対象に実施した全国調査をもとに栄養教諭養成における実態と課題を整理し、今後の栄養教育実習と教職実践演習の改善のきっかけを示すことに主眼を置いてみると、多くの栄養教諭養成校において「グループ討論」「事例研究」「模擬授業」を教職実践演習に取り入れていたが、「実務実習」「現地調査」などが取り入れていないことが明らかになった。そのため、昨今、「チーム学校」の構築が求められている中で、専門的に食育をつかさどる栄養教諭の果たす役割は大きくなると予測できる。そのため、教職実践演習においても一部の時間においては、小学校や中学校・高等学校などの教員免許の取得を目指す学生との共同開催の授業の有効活用を提案した。

また、教員として全員が持つべき「視点」や「知識」（例：子供への心理的・支援的な見方）、「方法」は様々な専門を背景として複数の視点でのグループワークによって見出すことができるが、またその一方で、学校現場からは、即戦力や教員としての資質を持った教員の養成が求められており、教職実践演習という大学4年間の学びの集大成ともいえる授業において、学生に対して「実務実習」「現地調査」など様々な経験を保障（機会の提供）することも必要であることが指摘できる。

最後に教育委員会との連携においては、栄養教育実習の主担当者（実習担当教員）の実務経験が「学校栄養職員」27.8%、「栄養教諭」25.0%と担当者の多くは学校現場を経験しており、一定の実践的な指導は可能である。しかしながら、学校現場で日々働く方々の実践知とは劣る可能性があることは否めず、これまで以上に栄養教諭養成において教育委員会との協力・連携を深めることで、短い栄養教育実習期間内で効果的な実習が可能となり、具体的には、教育委員会が指定した栄養教諭の置かれている学校での栄養教育実習によって、実践的な指導を受けることが可能となり、食育に関わる機会が増大することが予想される。つまり、栄養教育実習、教職実践演習の担当者間での栄養教諭養成のビジョンの共有はもちろんのこと、教育委員会などの教育行政機関・学校現場との連携・協働の促進が今後の栄養教育実習と教職実践演習の改善の一助となる。

#### 栄養教諭の人事政策に関する分析

全国の都道府県・政令指定都市の栄養教諭の配置率と採用選考を取り上げて、各都道府県等における栄養教諭の配置率と栄養教諭養成機関（大学）を取り上げ、教員採用選考における栄養教諭の採用状況と学校栄養職員の採用状況を確認するプロセスにより全国的な動向を明らかにした。

都道府県には栄養教諭を養成している大学が存在するの否かといった点と比較すると、全ての都道府県ではないが、養成大学がない都道府県では栄養教諭としての採用を行っておらず、学校栄養職員を採用、任用替えしている傾向が高いことが示された。このことは、教員の需要と供給のバランス問題に今後関連する事項である。

しかし人事政策研究の課題としては、政令指定都市における学校栄養職員と栄養教諭の配置状況である。都道府県に着目することはできたが、教員採用を独自に行っている政令指定都市に着目することで、より詳細な市町村の実態と掛け合わせることが可能となる。各都道府県の給食実施率と比較する必要がある。学校栄養職員、栄養教諭ともに給食管理が必要な業務であり、給食の有無で栄養教諭の採用状況にも変化があると可能性がある。栄養教諭の資質能力の育成方法について検討する必要がある。現在、栄養教諭の中には、大学等の養成機関で栄養教諭免許状を取得した上で教員となっている者、学校栄養職員から栄養教諭に任用替えされている者といったパターンがある。一方で、職務内容については自治体によって多少の差があるものの、栄養教諭としては共通した業務がある。教員免許状の取得にあたって様々なパターンがある中で、どのような資質能力が必要なのか検討する必要がある。ある県の育成指標では、食に関する

指導と教職管理を行う力の必要性，生徒指導の力，教育課題を解決しようとする力が必要であると示している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 佐久間邦友, 田中真秀, 本山敬祐, 亀田明美, 柳沼和子, 本間杏菜	4. 巻 6
2. 論文標題 栄養教諭養成における教育実習と教職実践演習の実態と課題-栄養教諭養成校対象のアンケート調査をもとに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教師教育と実践知	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 本山敬祐・佐久間邦友・柳沼和子・田中真秀	4. 巻 57
2. 論文標題 学校における食育に関する成果の捉え方 モデル事業指定校による事業報告書を手がかりにして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北女子大学・東北女子短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 88-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間邦友・亀田明美・本山敬祐・田中真秀	4. 巻 57
2. 論文標題 地方自治体における栄養教諭の人事政策に関する一考察 配置率と教員採用選考方法に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 郡山女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 31-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀田明美・柳沼和子・田中真秀	4. 巻 57
2. 論文標題 栄養教諭のキャリアパスに関する一考察 福島県内の学校栄養職員から栄養教諭への任用替えに着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 郡山女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 307-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐久間 邦友, 田中 真秀, 本山 敬祐
2. 発表標題 栄養教諭養成課程に関する現状と課題 養成校に対する意識調査をもとに
3. 学会等名 日本教育学会第79回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐久間邦友
2. 発表標題 栄養教諭養成に関する現状と課題 養成校の教育課程と意識に関する実態調査をもとに
3. 学会等名 日本大学教育学会秋季学術研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 眞弓真秀、佐久間邦友、本山敬祐
2. 発表標題 栄養教諭における人事政策に関する研究 地方公共団体の栄養教諭採用と学校栄養職員の任用替えに着目して
3. 学会等名 日本教育行政学会第54回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 亀田明美, 柳沼和子, 本間杏菜, 田中真秀, 本山敬祐, 佐久間邦友	4. 発行年 2020年
2. 出版社 郡山女子大学家政学部	5. 総ページ数 35
3. 書名 栄養教諭養成機関における教育課程の実態と養成校の意識に関する研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柳沼 和子  (YAGINUMA KAZUKO)  (10551145)	郡山女子大学・家政学部・助教    (31601)	
研究分担者	佐久間 邦友  (SAKUMA KUNITOMO)  (30761209)	日本大学・文理学部・助教    (32665)	
研究分担者	本山 敬祐  (MOTOYAMA KEISUKE)  (50737640)	岩手大学・教育学部・准教授    (11201)	
研究分担者	田中 真秀  (TANAKA MAKI)  (50781530)	大阪教育大学・教育学部・准教授    (14403)	
研究分担者	本間 杏菜  (HASIMOTO ANNA)  (10817985)	郡山女子大学・家政学部・助手    (31601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関